

# 知恵を絞り一歩ずつ

青年海外協力隊の一員として、2018年から20年まで

中米のエルサルバドル共和国で野球の普及活動に尽力した。グローブやバットもなく、野球をするのも難しい環境の中、知恵を絞り工夫を凝らすなどして、小学校7校で野球教室を開催。任地のチャラテナンゴ県で初となる小学校間での野球リーグを行い、ベースボールという言葉すら知ら



## エルサルバドルで野球の普及活動

### 根本 諒さん



れていない地域で野球の認知度向上に一役買った。

同国の山間部に位置する同県は、体育の授業で男子はサッカー、女子はソフトボールを学び、野球用具を見たことがない子どもたちも多い。野

球場は日本の支援で整備された球場が首都サンサルバドルに唯一あるだけで、地方ではサッカー場を使ってソフトボールやサッカーを楽しむのが定着している。

各学校を巡回して野球教室を開いたほか、野球アカデミーを週3回2時間ずつ開催。当初、女子1人だった受講生も最終的には9歳から13歳の

男女10人が参加。野球の練習方法を知らない子どもたちにもルールを説明するなどして一歩一歩確実に普及に努め、今年12月ごろには「エルサルバドルの子どもたちにグローブを寄付するめどが付いた」と目を輝かせる。

自身は、7歳上の兄が県立水戸商業高校で野球をしていた影響を受け、中学1年から野球に没頭。兄と同じ高校に進学し、3年時は主将としてチームをまとめ勝利に貢献した。大学でも公式一部リーグで活躍するなど内外野をオールマイティーにこなした。現在は県立坂東総合高校の教員として教壇に立ち、「いつかは野球部の顧問として生徒たちに野球の魅力や素晴らしさを伝えたい」と意気込む。坂東市逆井。27歳。(小室雅一)